

丸山湿原群保全の会会報

(第 194 号)

発行日：2023 年 (R5) 9 月 20 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

毎年のことですが、稲刈りが「あっ！」という間に終わっていきます。よく考えたら、田植えも「あっ！」という間に終わったので当たり前か。機械の力に感謝し開発者には尊敬の念を感じます。機械貧乏に追い込まれるのは恐ろしいことですが…。

毎年言っているようですが「日照りに不作無し」。作況指数は「平年並み=101」だそうです。(米穀データバンク 8 月 7 日予想) 北日本が「やや良」が多く、九州に「やや不良」がちらほら。個別には災害で「お手上げ」の所もあるに違いありませんが。米の需給は大丈夫なようです。西谷はどうだったんでしょうか？うちは昨年よりは穫れました。ただし「高温障害」あり。味には関係ないけどね。JA 出荷時に等級が下がります。変なの…。うちは JA には出しませんが。

朝夕は少し気温が下がりだしましたが、日中はまだ 30 度越え。何をしてもへばってしまいます。前回海水温の上昇を書きましたが、やはりサンマが獲れない。初値は 2,5000 円 (豊洲市場)。誰が食べるのでしょうか？政治家先生でないことだけを祈ります。しかし、こんな高くても売れるのか？最終残れば落札業者が食べる？超ご奉仕価格になるか？世の中不思議だらけです。12 月ごろにはかなり獲れるようになるとか。海は 12 月が秋になる。やはりブリとアジの時代か。

(今住 9 月 18 日作成)

サギソウ開花数調査 ★8 月 20 日 (日) 32 名で実施

毎年行っているサギソウ開花数調査。一応開花株としています。実際は見える花の数に近いカウントですが、同じスタイルで行っているので問題ないと考えています。湿原の状態を確認する「指標」としてしています。結果を先に。697 株の開花を確認しました。(32 名平均) 昨年よりは数が減っていますが、梅雨明けからの水不足等様々なことが影響していると考えられます。盛りの時期もよくずれます。今年は咲き始めが少し遅い。痩せた株や花数の少ないものが多かったように感じました。開花が始まる時期に「網引湿原保存会」(加西市)の方から連絡をいただきました。8 月 13 日に「今年はサギソウ壊滅的」と衝撃的な情報が。結局開花期が遅れていたようで約 10 日遅れて最盛期を迎えたようです。暑くなると開花が早まると考えがちですが不思議なことばかりです。やはり株は貧弱なようで「共生菌 (ラン菌)」との関係があるのかも、と偉そうなことを考えています。



世代を超えてサギソウカウント

も大変熱心にカウントしていただきました。会員の中にはちょっと要領をかましてさぼっている人

もいた？誰やねん！ま～内緒。いつもと同じように4つの班に分かれて、北側と南側から数えていきます。ブロックラインで9つに仕切られていますので、数える範囲が明確。



センサスラインの外から丁寧にカウント中

誰か？誰やねん？確認してみると、南側の「第8区画」をさらに2つに分けていたようです。今回は10ブロックで観測したことになります。やはり猛暑は恐ろしいもので、こんなミスを引き起こしてしまうのですね…ということにしておいて下さいな。

しかし情けない。誰やねん！結局、2つに分けた8区画を合算して毎年と比較できるように表にまとめました。

結果、環境変化は特に認められず。「サギソウにとって」は良好な状態と位置付けています。少し気になるのがシカの影響です。夏場は劇的に少なくなっていますが、よく出没するのが「第2区画」。経年比較すると昨年、今年は連続0。もともと乾き気味で



レア植物 ヒナノカンザシ

多いところではありませんが、シカの食害とも考えられます。注意深く観察していきたいと思えます。サギソウ（鷺草）の写真がなぜ無いのかは不明。誰やねん！

終了後、集計の発表。その時は700株以上と。しかし四捨五入等計算しなおすと、今回の結果となりました。この日のうちにラインを撤収、と考えていたのですが気力がない。マーキングの見直しもあるしね。その後、湿原内でしか見られないレアものを見る人や、極秘プロジェクトの取材やらで三々五々の解散となりました。というより、うやむやな解散？ちょっとあかんかと猛暑の中、「ぼーっ」と考えていました。来年への反省満載です。来年もするんやろか？多分…

定期活動 ★8月27日（日）ライン撤収 歩道脇整理 8名で作業



働き過ぎのキロスズメバチと巣 縁起物

ところが…北と南の真ん中（視点場）付近で何やら奇妙な出来事が。北からと南からのブロックの数が合わない。「そんなバカな話はありません！」と。ここは「5区画です」と北グループ。いいえ「6区画です」と南グループ。「前回ラインを張ったときに全部で9区画と確認しました」と偉そうに言う

2023 サギソウ開花数調査結果

丸山湿原エコミュージアム推進協議会
(実施団体 丸山湿原群保全の会)

調査結果（丸山湿原群 第1湿原のみ実施）

調査日：2023年8月20日（日）猛暑日 無風

平均 少数切り捨て（32名で観測）

区画番号	開花株数 2023.8.20	備考	開花株数 2022.8.20	(参考) 2021.8.22	(参考) 2020.8.16	(参考) 2019.8.18	(参考) 2018.8.18	(参考) 2017.8.19
1	0	最北	0	0	0	0	0	0
2	0		0	4	17	5	4	6
3	26		49	37	55	20	4	8
4	151		144	79	109	49	31	17
5	112		25	62	180	88	83	60
6	125 (4)	(小湿地)	170 (0)	121 (3)	219 (6)	143 (7)	121 (2)	93 (2)
7	64		147	117	168	114	60	63
8	156		201	117	119	125	90	52
9	63	最南	104	71	77	86	41	40
合計	697		840	608	944	630	434	339

(参考) 2016.8.20 103株 2015.8.19 363株

2023年度 総開花株数 697株

(区画の小数は四捨五入で計算 小湿地は含まず)

て。さぼってはいけません。ハチさんの働きぶりに学ばなければ…しかし凄い働きぶりです。「働きバチ」とはよく言ったもんだ。「働き方改革」を提案しま～す。11月ごろにはいなくなると思っています。終盤にはオスバチが生まれ、新女王様の旅立ち。その巣は空き家に。

残ったスズメバチの巣は「縁起物」。子孫繁栄・家庭円満・金運上昇・財務安定・勤勉・商売繁盛・無病息災・厄除け・長寿・健康につながるとか。1匹の女王バチからあれだけの数の働きバチが生まれ、勤勉に子育てと巣作りに励む。素晴らしい。ただ1点だけクレームが。「長寿」。スズメバチ（女王バチを含む）の寿命は約1年です。長寿か？…昆虫にしたら長生きか？この巣については予約済み。鳥も含め破壊されないことを願っています。いたずら厳禁。命取りになりますよ。倉庫には近づかないようにしてください。

さて、この日は先週のセンサスラインの撤収。（実は私は村の仕事で不参加）暑い中ご苦労様でした。倉庫にラインをビビりながらしまった様子が目に浮かびます。「そ～っと そ～っと」ね。これ書いてるけど批判来そうですね。来たらその人に駆除業者依頼してもらいましょう。と言うとまた苦情来そう…し～らない。

ライン撤収ともう一つ。猛暑にめげず、歩道脇の邪魔になる雑木を処理。写真では本当に微妙な作業ですが、実際は結構すっきりしています。（手作業の悲しさか…）ほかにもやっていますから。「働き方改革！」か？暑すぎるからね。



作業前 木が覆いかぶさっているベンチ



作業後 微妙だがすっきりしたベンチ

極秘情報第2弾 新情報です。数年前からの「謎のシャジクモ類」がついにベールを脱いだ！

丸山湿原で見つかっているシャジクモ（車軸藻）類。数年前、超権威の先生が持ち帰られ同定していただけることになっていたのでありますが、その後なしのつづて。皿池湿原でも同じようなことが起こっていたような？皿池湿原のシャジクモ類は「セイロンフラスコモ」のようだと言われていました。が、同定まではされていなかったような…同定されてたらごめんなさい。

ところが今回、たまたま知りあった東京からの超マニアの方が（怪しい人ではありません、千葉県立中央博物館の市民研究員）3月の寒い時期にわざわざ西谷までシャジクモ探索に来られていました。うちの田んぼ近くの溜池を覗いていて、かなり「やばい人」と注意深く、ちょっと「棘のある」接し方をしました。その後メールで交流しているうちに「本物の変人」と判明。「これは信用できる」と今年度のシャジクモ類情報を送りました。東京ですよ東京。おっかさん！



嬉々として採取する 好き物三人組

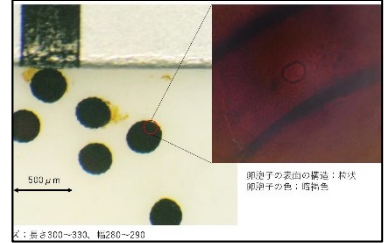
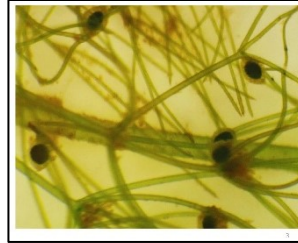
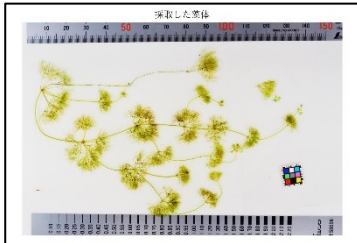
すると9月初めにシャジクモツアーに、好き物3人で来られるとか。（それぞれ東京、横浜、豊岡）いくつかため池巡りの候補を考えていたのですが、まず丸山湿原のシャジクモ類を同定して



採取されたフラスコモとヒメタイコウチ

いただくことにしました。ただ、シャジクモ類は出たり出なかつたりと不確定要素が高い。空振りもありとお伝えした上で案内。やはり干ばつの影響か第1湿原の前回採取した場所（下流水路）にはなし。諦めていたところ、第2湿原のEC観測場所に以前出たことを思い出して藪漕ぎしながら水路へ。「あるがな～」。嬉々とした表情で採取。とその時今度はヒメタイコウチ（姫太鼓打）が「ゴソゴソ」と。水生昆虫マニアも同行されていたのでこちららも嬉々として観察されていました。

シャジクモ類の同定結果は「セイロンフラスコモ」とのこと。実体顕微鏡の確認ポイント写真付きで送られてきました。細かな内容はブログに掲載中。シャジクモ類、何のことかよくわからない方も多いと思いますが、「へ～へ～」と思って覗いてください。HPからもブログに入れます。実はシャジクモ類（シャジクモ属・フラスコモ属）は環境省の絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に多くの種が入っています。もちろんセイロンフラスコモも。兵庫県では、まだ西谷のような山間部にきれいな水のため池が多くあり「要調査種」になっています。調査されていないのも現状。同定がかなり難しいことも一因？というより藻類の人気がないのか？でもモヤモヤしていたシャジクモ類、すっきりしました。ありがとうございました。しかし第1湿原のは種類が違うかも？やっぱりモヤモヤ…



以上の特徴から丸山湿原で採集されたフラスコモ属の1種はセイロンフラスコモであると同定された。

セイロンフラスコモ (*Nitella leptodactyla* var. *megaspora* J.Groves 1928)

貧栄養～やや中栄養な溜池に生育する輪藻類。

雌雄同株。藻体は長さ12～20cm。分布：本州、四国、九州 ・ セイロン、インド、マダガスカル

環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

兵庫県カテゴリ：要調査種

※字の読める同定
の内容はブログで



定期活動 ★9月9日(土) 基礎調査 トレイルカメラ確認 9名で活動

目的	市内	市外
丸山湿原	78	100
登山・ハイキング	36	55
散歩	10	2

来場者数計 281 人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	9:50	27.1℃		
第3湿原	10:31	【21.7】	82.3 μS/cm	6.2
視点場	10:49	27.2℃	水不足測定不能	5.6
第1湿原	10:59	【23.6℃】	60.1 μS/cm	6.1
第2湿原	11:26	【22.2℃】	43.1 μS/cm	6.1

水不足は相変わらず。視点場付近では EC の測定が困難な状況です。いつまでたっても「夏」

は続きます。西谷は夕立(ゲリラ豪雨)も無し。いいのか悪いのか。ところがキノコがにわかに爆発的に生えていました。初夏にはほとんど見なかったキノコ。今しかチャンスがないと思ったのでしょうか？松茸も出るのか？大きいものはカサが開いて40cmぐらいのものもあります。イグチ系もたくさん。水分が少なくても生えるキノコに進化しているのでしょうか。インフルエンザも夏に流行るしね…。湿原はサギソウの名残が少々。昨年は見つけれなかったミズトンボ(水蜻蛉)が小さな株ですが咲いていま



大きなキノコ オオオニテングタケ？

た。キセルアザミ(煙管薊)、シロイヌノヒゲ(白犬の髭)、サワヒヨドリ(沢鶉)などなど、秋の花に変わってきてはいます。日照時間に対応しているのでしょうか、気温にはどう反応していくのでしょうか？



ミズトンボ 小株

セミナー予告 11月23日(祝)「宝塚西谷の森公園」多目的室で森公園との合同企画「丸山湿原セミナー「自然史講座」を開催します。詳しくは次号で。ガイド研修の内容も次号で紹介予定。

次回活動日 9月24日(日) 10月14日(土) 22日(日) 11月11日(土) 23日(祝) セミナー 26日(日)